

令和2年8月18日 (火曜日)



自民党の足立敏之参院議員は、梅雨前線に伴う7月27～29日の豪雨で甚大な被害を受けた山形県の最上川

沿川地域を5日に視察し、支川などバランスの良い流域治水が重要だ」と訴えた。立氏は「(2020年7月豪雨で氾濫した)球磨川も同じだが、狭窄(きょうさく)部と盆地が重なる地域」

視察した。堤防が整備されている(西川町)も視察した。1991年の完成以来最大の流入量毎秒1283立方メートルを記録したが、下流には最

20年7月豪雨

足立議員が最上川視察

バランス良い流域治水を

は被害が大きくなる」と指摘。温暖化に伴い降雨量が增大しているとした上で「ハードとソフト、本川と

ない箇所(無堤部)や本川堤防の低い箇所でも床上浸水が多発していることを確認。各首長から堤防の早期整備、調整池の前倒し整備などの要望を受けた。直轄の「寒河江ダム」

最上川上流の直轄の白川ダム(飯豊町)や長井ダム(長井市)も同様に大きな効果が発揮。足立氏は「ダムが効果を発揮すると被害が何も起きない。だからこそ、きちんと確認していかねければいけない」との考えを示した。

被害状況の説明を受ける足立参院議員(左から2人目)

直轄の「寒河江ダム」